



お客さまのため、市場のため、会社のため…… さまざまなチャレンジを試みる

株式会社クレスコ
代表取締役 社長執行役員
富永宏氏

(とみなが・ひろし)
1967年山口県生まれ。大阪電子専門学校卒業後、システムエンジニアとなる。90年クレスコ入社。ソリューション本部基盤システム事業部第三部長、同事業部長などを経て13年取締役 ビジネスソリューション事業本部副部長。その後、取締役 事業統括本部副部長、取締役 常務執行役員 経営管理本部長 兼 経営戦略統括部長、品質管理本部管掌 取締役 専務執行役員 執行役員 サービスコンピテンシー統括本部長 兼 技術研究所、品質管理本部管掌などを歴任。22年4月より現職。

将来の道を技術者と決めて進学校から専門学校に

正直なところ、子どもの頃から本を「読む」習慣がなく、夏休みの読書感想文の宿題は大の苦手。理系志向でしたので、実験やモノづくりといったほうが好きでした。ですから、進学校時に自分の将来を考えたとき、「技術を身につけて、

早く働きたい」という思いが強く、躊躇なく情報処理の専門学校に進みました。郷里の進学校は、一学年約200名のうち大学に進学しなかったのは、私を含め10人程度と記憶しています。とはいえ、大学進学に向け予備校には通っていません。親からは、「予備校まで通って、なぜ大学に行かないのか」とチクチク言われましたけどね。

でも、最終的には私のわがままな「思い」を認めてくれました。専門学校卒業後、システムエンジニアとして、職業人生をスタートしました。以来、自分の決めた道ですから、スキルと知識を身につけるため、がむしゃらにさまざまな技術書を読み倒しました。技術書以外では、取締役就任前、マネジメントスクールで学んだ際に、

講師の著名な経営学者ジョセフ・バダラッコ先生から配布された「経営戦略」でしょうか。ホテルに缶詰めになって勉強した本です。から思い出深いです。
最近読んだ本では、三谷宏治さんの『経営戦略全史』です。ポーターやドラッカーなど、有名な経営戦略のポイントがまとめられており、ちよつとした折に、振り返

るのに丁度よいものです。この本は、私が社長になることを知った高校時代の友人からのプレゼントで、彼は現役の経営コンサルタントなんです。同じく独立して飲食店チェーンを運営する別の友人と私の3人は昔からよく会う仲で、集うたびに彼らは「企業経営とは」と熱く語っていました。私がトップでもなければ、社長になるとも思っていなかった頃は、横で聞いていただけでしたね(笑)。

一人では何もできない 座右の銘は「感謝」

私一人の力ではなく、周囲の人たちが押し上げてくれたからです。若い頃は技術者としてがんばるのだ、という思いだけでやってきました。その中で何か問題があったとき、一緒に働く仲間やお客さまに救ってもらったおかげで、今の私があります。そうはいっても、若い頃は何でも自分1人でやるぞと、尖っていました。壁にぶち当たる度にいろいろな人が助けてくれ、所詮、1人では何もできないことを思い知らされました。

です。自分がしてもらったように、若い人たちを育てよう、職場で働く人たちのマインドを前向きにしよう、そして、働いていてよかったという環境づくりをしよう。つまり、「感謝」をベースにしたマネジメントですね。これは今でも変わりません。社員や社員の家族が、誇りを持ってクレスコで働けて、幸せだと思える企業にする。それが現在の私の役割です。
当社の創業者・岩崎俊雄がつくった経営理念に「人間中心」という言葉が出てきます。今も脈々と全社員に引き継がれている言葉です。私は、特に社員の健康を意識しています。マインド面だけでなく、フィジカルな面もケアすべきと思い、2021年度に「健康増進手当」を創設しました。これは肥満度などの数値や禁煙、またウォーキングなど目標化し、目標を達成した人に年1回、手当を支給するものです。当社の社員数は1400名弱なのですが、支給した人は約600名。予想を上回る結果で、社員の「健康」に対する考

え方が大きく変わりつつあると実感しています。
私が社員に強く期待すること、それは「チャレンジ(挑戦)」です。厳しい経営環境の中で事業を続けておられるお客さまに寄り添い、ともに考え、望まれることを形にしていく。加えて、当社内の仕組みをよりよく変える、市場を俯瞰的に見て新たに必要な技術を学び、自身のマインドを変えていく——チャレンジの形は多種多様です。当社の経営理念に「皆が経営する会社」というものがあります。その思いを持ち続け、チャレンジすることの大切さを社員に伝え続けていきます。

富永社長が友人に勧められ役立ったと感じる1冊

『経営戦略全史』
三谷宏治 著 (ディスカヴァー・トゥエンティワン)
テイラー、メイヨー、フェイヨル……。20世紀初頭から現在まで約100年の間に、ビジネス革新を巡る巨人たちが表した90余りの戦略コンセプトを背景とともに紹介する「ストーリーで読む経営戦略書」。

「皆が経営する会社」

長年プロジェクトマネジメントに専念してきた私は、初めてライン職である部長を拝命したとき、自分に何ができるかを真剣に悩みました。そこでふつと気づいたの



富永社長の趣味の1つは旅行。フィレンツェでは、街角でジェラードを楽しんだ

